

震災を踏まえた学生向け学習機会の提供

平成23年7月1日

情報提供部局等	名称	種類	概要(震災との関わり)	提供時期	学外開放の有無 (聴講、傍聴、ネット配信 など)	履修・参加に関する留 意点	問い合わせ先
○講演会、シンポジウム等							
工学系研究科 社会基盤学専攻	Japan's Inclusive Seminars for Internatoinal Society "The March 11th East Japan Earthquake and Tsunami"	講演会	阪神大震災に関わる建築・社会基盤・都市工の教員らによる震災・津波被害に関する講演会。留学生への的確な情報提供もねらい、英語で実施する。	2011年6月27日(月)、 29日(水)、30日(木)	聴講	特になし	家田仁(社会基盤・教授、代表) ieda@civil.t.u- tokyo.ac.jp
文学部・人文社会系研究科	東京大学緊急討論会 震災、原発、そして倫理	ディスカッション	東日本大震災から突然始まった、新しい日本の相貌に対面して、アカデミズム、そして哲学・倫理は、何をなすのか。学問の真価が問われる局面に、いま向きあう。	2011年7月8日(金) PM1:30~ 東京大学本郷キャンパス法文2号館2階一番大教室	一般の聴講も可	-	東京大学大学院人文社会系研究科 哲学研究室 一ノ瀬正樹教授
文学部・人文社会系研究科	「これからの原子カシステムと教育の見直しに求められること」	講演会	カリフォルニア大学バークレー校教授で原子力工学専門の安俊弘氏を招き、福島第一原発事故の背景、その後の対応の問題点、今後の日本の課題などにつき、国際的視点も交えて率直かつ社会の問題も含めて幅広く話題を提供。	2011年7月13日(水) PM6:00~8:00 東京大学本郷キャンパス法文1号館315教室	一般の聴講も可。 安氏の発表概要は、科学・技術と社会の会のウェブサイト (http://www.l.u-tokyo.ac.jp/JASTS/)に掲載。	-	東京大学大学院人文社会系研究科 社会文化研究専攻 松本三和夫研究室気付
文学部・人文社会系研究科	「平泉文化と死者への憶い」	公開セミナー	2:00 開会、黙祷 主催者挨拶 一ノ瀬正樹(東大教授、死生学拠点リーダー) 2:15~2:45 第一部 音楽演奏 音楽による癒し~追悼と再起~<演者は、いちむじん もしくは 大島花子 で折衝中> 3:00~3:50 第二部 学術講演 佐藤信(東大教授)<演題未定> 4:00~5:00 第三部 パネルディスカッション 生者は死者をどう送ってきたか パネラー3名 木村直弘(岩大教授、音楽学) <平泉の仏国土について><グリーンフケアについて> 司会進行 小島 毅(東大准教授) 5:00 閉会の辞 藪 敏裕(岩大教授、平泉研究拠点形成代表)	2011年8月6日(土) PM2:00~5:00 平泉文化遺産センターホール(150人収容)	-	-	東京大学グローバルCOE「死生学の展開と組織化」 岩手大学「平泉研究拠点形成」
理学部・理学系研究科	学校の先生のための放射線勉強会(2)	公演会	小学校、中学校、高校の先生方を通じて、児童、生徒さん、各家庭で放射線、放射能について適切な考えをお持ちいただく基礎知識を提示する「学校の先生のための放射線勉強会」を開催いたします。本勉強会では、危険・安全の2元論ではなく、基礎的な知識や考え方を皆さんと共有したいと考えております。 *5月8日に開催された「学校の先生のための放射線勉強会」と一部、講演が重複しますがご了承ください。	2010年7月16日(土) 14時~17時 東京大学大学院理学系研究科理学部小柴ホール	有・聴講	小・中・高校の先生のみでの参加とする 参加するには事前申し込みが必要	東京大学大学院理学系研究科理学部・広報室 TEL:03-5841-7601 E-mail: kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp

震災を踏まえた学生向け学習機会の提供

平成23年7月1日

情報提供部局等	名称	種類	概要(震災との関わり)	提供時期	学外開放の有無 (聴講、傍聴、ネット配信 など)	履修・参加に関する留意 点	問い合わせ先
農学部・農学生命科学研究科	「イネイネ・日本」プロジェクト第11回シンポジウム「がんばれ、東日本の米作り! ②」	シンポジウム	東日本大震災における農業被害について実情を把握するとともに、復興対策を議論することを通じて、被災地を支援する。	2011年11月23日(金)	学外者参加可能	東京大学の教職員の参加無料(事前登録の予定)	農学生命科学研究科 アグリコケーン事務室 (電話03-5841-8882 担当:仙元)
農学部・農学生命科学研究科	「イネイネ・日本」プロジェクト第11回シンポジウム「がんばれ、東日本の米作り! ③」	シンポジウム	東日本大震災における農業被害について実情を把握するとともに、復興対策を議論することを通じて、被災地を支援する。	2012年3月3日(土)	学外者参加可能	東京大学の教職員の参加無料(事前登録の予定)	農学生命科学研究科 アグリコケーン事務室 (電話03-5841-8882 担当:仙元)
総合文化研究科	シンポジウム「傷つく社会、再生する社会」	シンポジウム	戦争など人災も含め広い意味での災害に苦しむ世界各地域の状況を紹介しながら、それぞれの地域が再生・復興に努める様相もとらえる。日本の災害史などの観点も踏まえる予定。	10月22日	聴講、傍聴自由、学外者歓迎	一般も含む大学院入学希望者を対象とする	地域文化研究事務室 03-5454-6321
総合文化研究科	科学技術インタープリタープログラム公開シンポジウム	シンポジウム	黒田玲子:震災および原子力事故と科学コミュニケーション 牧野淳一郎:シミュレーションと「想定外」(あるいは「想定外」の意味論?) 藤垣裕子:低レベル放射線の長期健康影響をめぐる数値の一人歩き 高橋智:震災によるアルツハイマー病の悪化について	10月8日	有	HPからの事前申し込み制	科学技術インタープリター養成部門(03-5465-8828)
教育学部・教育学研究科	震災被害への有効な心理支援に向けて	国際シンポジウム(安田講堂)	諸外国の専門家及び日本の担当者が会して心の傷への有効な対応を協議する	2011年10月10日(月)(休日)	学外開放(予定)聴講のみ	有料の可能性 学会主催 予約参加	下山研究室 (内23949)
教育学部・教育学研究科	PTSD—傷ついた心のケアのために	公開講座	専門家を招いてPTSD治療について講演(震災被害者を含む。)	2011年11月20日(日)あるいは12月11日(日)	学外開放聴講のみ	無料(予約)	心理教育相談室 内23954
薬学部・薬学系研究科	日本社会薬学会第30回年会	特別シンポジウム「東日本大震災とくすり」	午前は「現場で何が起きたのか」と題し、実際に復興支援に携わった薬剤師・医師の実地報告、午後は「供給サイドはどう動いたか」と題し、厚生労働省、日本医薬品卸業連合会、日本製薬工業協会、日本薬剤師会、WHOから演者を招聘し報告とパネルディスカッションとを行う。	2011.9.4(日)9:30-11:30 13:40-15:30	学会年会の一部であり、参加費(学生は1,000円)が必要となる	-	実行委員長 五十嵐 中 tel: 03-5841-4828 e-mail: issp30nenkai@gmail.com http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~utdpm/JSSP30/JSSP30top.html
薬学部・薬学系研究科	育薬セミナー(特別企画)災害時、「薬が飲めない 使えない」「生活・体調の変化」に対応した薬学的管理	セミナー	大学で薬を学び、研究する薬学生は、災害時の薬物治療の現状を知り、問題点をどう解決したらよいか考え、自ら理解した方法を一般市民へ啓発・発信することが重要である。今回の東日本大震災を機会に、災害時においても医薬品適正使用を推進するための方法論を学習するための機会を提供する。	10月~11月に全2回(予定)のセミナーを開催する。	学外解放あり(セミナー受講可、インターネット配信の閲覧及び関連テキスト(冊子)のダウンロード可)	受講終了後レポート(感想等)あり	東京大学大学院 薬学系研究科(医薬品情報学教室) 澤田康文 saigai@ikuyaku-ut.jp

震災を踏まえた学生向け学習機会の提供

平成23年7月1日

情報提供部局等	名称	種類	概要(震災との関わり)	提供時期	学外開放の有無 (聴講、傍聴、ネット配信 など)	履修・参加に関する留 意点	問い合わせ先
新領域創成科学研究科	日本第四紀学会 緊急シンポジウム「巨大地震を探る — 第四紀学からのアプローチ—」	日本第四紀学会 緊急シンポジウム (公開)	東日本大震災を引き起こした東北地方太平洋沖地震や巨大津波について最新の科学的知見にもとづく解説を行う。今後の余震や新たな地震誘発、過去の地震履歴について、長期的な視点から議論を行い、震災の原因となった自然力の実態を把握し、将来の減災への手がかりをうることを目的とする。	2011年7月10日(日)	聴講可	日本第四紀学会の公式行事として実施されるので、単位認定される予定はない。	須貝俊彦(新領域・自然環境学専攻、内線:64771)
情報学環・学際情報学府	【gakkan@post311】情報学環メディア・コンテンツ総合研究機構×放送人の会 共催シンポジウム「映像の中の<東北>」	シンポジウム	東北とは私たちにとって何であったのか、そして、テレビは東北をどのように記録してきたのかを、映像の中で「東北」を再現することで考える。	2011年7月16日(土) 13:30~16:00	傍聴	特になし	publicity@nulptyx.com 東京大学大学院情報学環 石田英敬研究室 TEL / FAX: 03-5454-4939
情報学環・学際情報学府	【gakkan@post311】「東アジア安全共同体を目指して—エネルギー・リスク・ガバナンス(国際協力)」東京大学大学院・情報学環・現代韓国研究センター主催国際シンポジウム	シンポジウム	原子力エネルギーや原発の操業・管理の現状とその体制に関してその問題点も含めて相互の理解を深め、さらにリスクを拡散、共有しつつ、どのような「安全共同体」の形成に向けた取り組みが必要なのか、議論を深める。	2011年7月18日(月) 13:00-18:00	傍聴	特になし	東京大学大学院情報学環 現代韓国研究センター E-mail : ccks@iii.u-tokyo.ac.jp tel / fax : 03-5841-0377
地震研究所	地震研談話会	講演会	大地震・津波研究の速報	毎月第三金曜日 13:30~(二時間程度・発表件数による)	有(学外からの傍聴を認めており、報道関係者などには事前通告している)	地震研ホームページトップに開催予定情報あり	平賀岳彦(5841-5735)
地震研究所	地震研金曜日セミナー	講演会	大地震・津波研究特集を開催中	第三金曜日を除く金曜日 15:00~17:00	無(研究者のみの会としており、学生は研究者として認めていることから参加可)	地震研ホームページ内で談話会・金曜日セミナー項目に開催予定情報あり	平賀岳彦(5841-5735)
生産技術研究所	都市災害軽減工学	工学系研究科社会基盤学専攻および情報学環・学際情報学府の授業	都市災害の軽減を目指した工学技術・防災計画・防災情報の利用方法についての学習を目指しており、東日本大震災の事例も踏まえた講義を提供している。	2011年夏学期木5時間目(〜8月11日)	学外開放はなし	履修しておらず参加したい場合は、問い合わせ先まで要連絡	info@risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp
生産技術研究所	自然災害と都市防災	工学系研究科社会基盤学専攻および工学部社会基盤学専攻の授業	自然災害が都市に与える影響とその影響を軽減するための方策について学習する。東日本大震災の事例も踏まえて、過去の都市災害で起こった社会的影響と対策の実施例を学習する。	2011年冬学期	学外開放はなし	要履修	info@risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp

震災を踏まえた学生向け学習機会の提供

平成23年7月1日

情報提供部局等	名称	種類	概要(震災との関わり)	提供時期	学外開放の有無 (聴講、傍聴、ネット配信など)	履修・参加に関する留意点	問い合わせ先
海洋アライアンス	大震災からの復興への筋道	シンポジウム (海洋アライアンス・日本財団共同開催)	海洋アライアンスメンバーと現地からの招待講演者が、復興への課題の整理を行う。	2011年7月8日(金) 13:00~18:00	一般公開(赤坂日本財団ビル1階、内容は学内広報及びホームページに公開の予定)	事前登録制 (http://www.oa.u-tokyo.ac.jp/ から)。学生の当日参加は可能。ただし、定員上事前登録が望ましい。	office@oa.u-tokyo.ac.jp(大気海洋研:野村)
海洋アライアンス	震災を科学する	シンポジウム (海洋アライアンス主催、第6回東京大学の海研究)	東京大学海洋アライアンスのメンバーが震災の科学的側面を一般市民むけに解説する。	2011年7月14日(木) 10:00~18:00	一般公開(弥生講堂、内容は学内広報及びホームページで公開の予定)	事前登録制 (http://www.oa.u-tokyo.ac.jp/ から)。学生の当日参加は可能。ただし、定員上事前登録が望ましい。	office@oa.u-tokyo.ac.jp(大気海洋研:野村)
○授業科目、ゼミ等							
工学部都市工学科	東日本大震災からの復興とまちづくり	総合科目(教養前期課程)	東日本大震災を受けて、その被災の状況把握と復旧、さらに復興まちづくりについて、各教員がそれぞれ実践的に関わっている中で、緊急講義とする。	2011年度冬学期	無し	通常の総合科目と同様	窪田亜矢:東京大学大学院工学系研究科、ak@ud.t.u-tokyo.ac.jp、03-5841-1845
経済学部・経済学研究科	応用統計ワークショップ特別企画セミナー	授業科目(大学院)	特別企画:災害と統計科学3「チェルノブイリの経験と統計科学(仮題)」(報告者:柴田義貞、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設教授)	2011年7月22日(金) 16:50~18:10	授業の一環のため原則学内	特になし	日本経済国際共同研究センター
教養学部(前期課程)	自主講義「放射線学」のスライド公開	web 学習(教材のネット公開)	放射線に関する知識を身につけ、風評に惑わされず正しく判断する能力を養う。(自主講義は5、6月で完結だが、冬学期に総合科目開講を予定。スライドは継続公開。)	提供中	ネット公開。 http://radphys4.c.u-tokyo.ac.jp/~torii/lecture/	スライド閲覧・ダウンロードは自由	torii-radio@radphys4.c.u-tokyo.ac.jp
教養学部(前期課程)	福島原発に関する文書公開	web 学習(教材のネット公開)	教養学部物理部会教員有志による文書「原子炉の物理」および「放射線の物理および生体への影響」の公開により、正しい知識の涵養と理解の助けとする。	提供中	ネット公開。 http://physics.c.u-tokyo.ac.jp/?page_id=563	文書閲覧・ダウンロードは自由	torii-radio@radphys4.c.u-tokyo.ac.jp
教養学部(前期課程)	英語 II C	授業科目	本英語必修授業は、映像を用いた対話・独話の聴解活動を通して、英語の聴解能力を養うことを目的とし、国際社会に目を向けつつ生の英語談話を受容する自律的英語学習者になれることをめざしているが、その一環として、米国ハーバード大学に於いて「世界は震災から何を学べるか」というテーマで開催されたシンポジウムでの講演・議論を視聴・聴解し、世界が日本での震災をどうみつめているかを考察する一助とする。	2011年夏学期(他の授業活動との併用のため一部の授業コマのみ)	無(前期課程外国語必修授業であり、視聴覚教室の席数も履修生生徒席のみのため、登録履修生以外には解放一切無し)	前期課程外国語必修授業であり、視聴覚教室の席数も履修生生徒席のみのため、登録履修生の参加に限定される	藤井聖子(言語情報科学専攻・英語部会)

震災を踏まえた学生向け学習機会の提供

平成23年7月1日

情報提供部局等	名称	種類	概要(震災との関わり)	提供時期	学外開放の有無 (聴講、傍聴、ネット配信など)	履修・参加に関する留意点	問い合わせ先
教養学部(前期課程)	「放射線を科学的に理解する」	主題科目テーマ講義	放射線に関する様々な分野の科学的知識を身につけ、定性的および定量的に正しく判断する能力を養う。	2011年冬学期	講義スライドは一部をネット公開予定。 http://radphys4.c.u-tokyo.ac.jp/~torii/lecture/	理科生を主な対象とするが、意欲のある文科生も歓迎。	鳥居寛之(torii-radio@radphys4.c.u-tokyo.ac.jp)、渡邊雄一郎(solan@bio.c.u-tokyo.ac.jp)、小豆川勝見
教養学部(前期課程)	「大震災」の記録・記憶・表現の可能性—比較文学比較芸術入門(仮題) 担当:今橋映子教授	2011年冬学期 全学自由ゼミナール(今のところ月曜2限を予定)	三陸大津波、関東大震災、阪神大震災、東日本大震災の際に書かれ、記録、表現されてきた文学、絵画、写真作品などを取り上げ、未来にとって何が必要で可能なのか、その糸口を共に考え、討議する。	2011年冬学期	単位履修可能者=前期課程学生(理系文系問わず)	共通テキストを1冊購入してもらう予定(詳細未定)	hikaku@fusehime.c.u-tokyo.ac.jp(比較研究室アドレスを通して、ご連絡下さい)
教養学部(後期課程)	「文化人類学野外実習実験Ⅰ」 「文化人類学野外実習実験Ⅱ」	授業科目	後期課程科目「文化人類学野外実習実験」の授業を、当初の予定を変更し「災害の公共人類学—東日本大震災」というテーマで行っている。東北の被災地に学生を連れて行き、チームとして調査実習を行うことは考えていないが、学生たちは夏休みにそれぞれの関心から個別に調査を行い(夏休み前に調査計画書を出させます)、冬学期を通して、報告書にまとめることになっている。	夏学期・夏休み・冬学期	無	-	文化人類学・教授 山下晋司
地震研究所	地震物理学	授業科目(理学部)	適宜、題材として取り上げている。	今年度夏学期	無	履修届け期間は終わっている。	nakatani@eri.u-tokyo.ac.jp
地震研究所	惑星地球科学I	授業(教養前期課程講義)	最終回に今回の地震の概要(何が起きたか、何故予想できなかったか、何が新しくわかりつつあるかなど)を説明する	2011年7月4日(月) 10:40~12:10@駒場	無	それまでの講義を聴かないとわからないかもしれない。	地震研・川勝均